

「地球温暖化を止める条例策定を求める請願」の結果について

生協労組おかやま
支部執行委員長 木本 ゆりえ

倉敷支部で取り組んだ「地球温暖化を止める条例制定を求める請願」署名は、皆様のご協力により、535名分の署名が集まりました。労組員230人足らずの倉敷支部にとって、記憶にある限り過去最高の集約です！ご協力、本当にありがとうございました。今回の署名の取り組みでは、これまでにない反応も多く寄せられました。コープ倉敷北店頭での署名行動や分会での署名のお願いでも、「皆さん地球を守らないといけないと非常に関心が高い。署名も気持ちよく書いてくれました」とあるパート分会長さんは感想を述べています。倉敷市内の労働組合へも署名を依頼しましたが、県労倉敷に参加していない労働組合からも数多くの署名が届けられ、これまでにない運動の広がりとなりました。これらも、思想・信条を超えた、地球温暖化への国民的な関心の高さや危機感の表れと思います。

署名数は全部で2,182人分となり、11月30日に倉敷市議会議長に提出しました。

11月定例倉敷市議会に提出した請願は、市議会の市民環境委員会に付託されました。12月10日に開催された同委員会で採決がされ、賛成3名（青空市民クラブ、共産党、清風会）、反対4名（自由民主クラブ2名、公明党、天領政和会）で不採択になりました。これを受けて12月16日の本会議の議決で不採択になりました。

紹介議員になっていただくよう7会派に文書での依頼とあわせ、開会初日の11月30日には全ての会派へ訪問しました。請願の趣旨に反対された会派はどこもありませんでした。その時の、本請願署名に対する各会派別の反応は以下の通りです。

- 青空市民クラブ:趣旨はわかる。条例には賛成の意見。条例でやるのか施策として行うのか意見が出た。
- 公明党:(条例制定に)反対ではない。まだ議論が十分でない。国の政策など情勢を踏まえて判断したい。
- 新生クラブ:(市民環境)委員会でしっかり議論をする。意見が分かれている。
- 天領政和会:反対ではないが、委員会で検討する。
- 自由民主クラブ:考えがあるので…
- 清風会:理由は言えないが紹介議員にはなれない。
- 日本共産党:趣旨に賛同し、紹介議員を承諾。

倉敷市議会の8日の一般質問では、末田正彦議員(共産党)が2011年4月からの実施される倉敷市地球温暖化対策実行計画(素案)をとりあげました。水島コンビナートのJFEスチールが温室効果ガスを2012年度までに09年比1.27倍を増やす計画で、中国電力は同1.02倍増やす計画になっていることを指摘し「倉敷市の2012年度までの6%削減目標は崩れているのではないかと追及、大口排出源企業と公的削減協定を締結することを求めました。

倉敷市の温室効果ガスの81%が産業部門で、その9割以上が水島コンビナートからの排出です。こうした、市議会で明らかになった地球温暖化対策の問題をみても、排出削減のための実効性のある制度を整備する条例を求める運動は大きな意味をもっていることが明らかになりました。

これは、日本政府が25%削減を国際公約にしながら、温暖化対策基本法を先送りするなど、目標を達成するための措置をとっていないことも、自治体の姿勢に影をおとすことになっています。

この度の請願は私どもの力不足もあり残念ながら採択はされませんでした。しかし、「この星のすべてのいのちを、気候変動から守るために」、ストップ地球温暖化の大きな運動と世論をつくるよう、今後のとりくみについての論議をおこない、他団体との協力・共同を広げ、ひきつづき奮闘していきましょう。